

ランバス留学 研究成果報告

2024年 10月 31日

ランバス留学基金委員会 御中

所属：商学部
職名：准教授
氏名：浦野 充洋

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	ランバス留学（滞在国：アメリカ合衆国）
研究課題	社会的企業を実現するビジネス・エコシステムに関する研究
研究実施場所	Columbia University in the City of New York
研究期間	2022年 9月 1日 ～ 2024年 8月 31日（24ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

報告者は、2022年9月1日から2024年8月31日にかけて、アメリカ合衆国のColumbia University in the City of New YorkにVisiting Research Scholarとして滞在し、社会的企業を実現するビジネス・エコシステムに関する研究を中心に研究活動に従事した。2年に渡ってColumbia Universityをベースに活動したが、1年目と2年目で同大学内での所属を変更しており、以下では1年目と2年目に分けて活動内容を記載する。

1年目にあたる2022年9月から2023年8月は、Columbia UniversityのColumbia Business School (CBS) 内に位置するCenter on Japanese Economy and Business (CJEB) に所属して研究活動を行った。CJEBでは、国際経済学やコーポレート・ファイナンス、日本経済を専門とするDavid Weinstein教授を受入教員として、part-time Visiting Research Scholarとして滞在した。Weinstein教授は、旭日中綬章を受賞するなど、日本経済に精通され、日米の学術的な交流に積極的に従事されてきた研究者である。Weinstein教授がセンター長を務めるCJEBは、日本の企業と大学教員を対象にVisiting Scholars Programを提供しており、同プログラムのもとワークショップ、同センターに滞在する客員研究員の研究発表会、ニューヨークの企業訪問などが行われている。報告者も、同プログラムに参加し、日米の企業動向に関する情報収集を行うとともに、同センターに所属する教員や他の客員研究員と交流した。加えて、CJEBは米国展開をしている日本企業や日米の経済動向に関する講演会など数多くのイベントを主催しており、それらのイベントにも参加し、日米の企業や経済の動向に関する情報収集を行った。加えて、CJEBに限らず、社会的企業に関わるコースを中心にColumbia Universityで開講されている授業を受講した。特にCBSでは、毎回、社会的企業に関わる実務家がゲストとして登壇する授業も開講されており、米国における社会的企業の実情に関する情報収集を行うことができた。他にも、国際公共政策大学院で開講されたコースの受講を通じて、企業と

社会の関わりについて、より政策的な観点からも学ぶことができた。さらに、CBSはTamer Institute for Social Enterprise and Climate Change(2024年にTamer Center for Social Enterpriseから改組)を有しており、同機関で開催される講演会などにも参加し、社会的企業に関わる情報収集を行った。そのほか、米国東海岸では、Harvard UniversityのSocial Enterprise Initiativeを擁するHarvard Business School やSocial Innovation and Change Initiativeを擁するHarvard Kennedy Schoolにおいても社会的企業に関する研究が盛んに行われ、社会的企業が推進されている。そのため、ボストンに赴いて、それらの機関が開催するイベントにも参加し、情報収集に努めるとともに、社会的企業に関わる研究者や実務家と交流した。

2年目にあたる2023年9月から2024年8月は、Columbia University内のInstitute for Social and Economic Research and Policy (ISERP) に所属を移した。ISERPでは、経済社会学や組織論を専門とするDavid Stark教授を受入教員として、non salaried part-time Visiting Research Scholarとして滞在した。Columbia Universityは、米国で初めて社会学の講座を開き、2番目に社会学部を設立し、これまで世界的に活躍する社会学者を数多く輩出してきた大学である。特に報告者の専門領域である組織社会学においては、コロンビア学派と呼ばれる学派を形成するほど、組織に関する研究が盛んに進められてきた。Stark教授は、社会学部において、現在、その組織論の系譜を引き継いでいる教授である。報告者は、社会的企業に関する研究を続けてきたが、企業の社会性を検討するためには、価値に関する理論的考察を深める必要があった。この点で、Stark教授は、社会学における価値評価研究の領域において世界を牽引してきた研究者であり、留学2年目はStark教授の開講する大学院演習への参加、学部講義の受講、彼の関わる講演会への出席などを通して、情報収集やディスカッションを行うなど、主に彼のもとで理論的考察を中心に研究活動を行った。また、Stark教授のもとで研究を行っていた他の客員研究員や社会学部を中心に大学院生と交流する機会が数多くあり、学術的な情報交換なども多く行った。加えて、Stark教授は、現在、経営組織論、経営管理論の分野で注目を集めてきている、アルゴリズム・マネジメントに関する研究を精力的に進めており、報告者もアルゴリズム・マネジメントに関する研究にも従事した。さらに、社会学部で開講されていた社会学の基礎的なコースなども受講することで、社会学全般にわたる知見を広げることができた。

以上のように、本留学は、社会的企業に関わる研究を軸としながら、幅広く日米の企業や経済の動向に関する情報収集を行うとともに、世界の最先端の研究に触れながら、理論的な考察を深める機会となった。また、Columbia Universityを中心に、教員、他の客員研究員、大学院生、学部生との交流を通じて、新たなネットワークを得るとともに、見聞を広げる貴重な機会ともなった。留学中に知り合った研究者とは継続的にコンタクトを取り、共同研究を企画、推進している。こうした貴重な機会をくださった関西学院に改めて感謝申しあげたい。

以 上